

2026年度

Peach Women's Business School

開講式・基調講演

登壇者：キャングローバル戦略研究所 上席研究員
北海道大学公共政策大学院 客員教授
峯村 健司 氏

講演テーマ：「激動の国際情勢を読み解く」

～日本はどう生き残ればよいのか～

2026年度PWBS 第1回アンケート集計結果

研修日：2026年5月26日(火)

登壇者：キャノングローバル戦略研究所 上席研究員 北海道大学公共政策大学院 客員教授
峯村 健司 氏

講演テーマ：「激動の国際情勢を読み解く」～日本はどう生き残ればよいのか～

(1) 峯村 健司氏の講演はいかがでしたか。感想をお聞かせください。

これまでメディア報道でしか知りえない社会情勢の情報を、直接取材したリアルな情報をわかりやすく教えていただき、とても貴重なお話を聞いて感動しました。
また、ただ見守るしかできないと考えていた状況から、自分に何ができるのかを考える機会となり、企業としても有事の災害対策に取り組んでいかなければならない状況にきている部分を社内に展開し、伝えていきたいと思いました。

在日中国人として、日中米の関係には以前から強い関心を持っており、最近の米中首脳会談にも注目していたため、本講演を大変楽しみにしておりました。
日本人ジャーナリストの視点に触れることで、自分自身の視野を広げる良い機会となりました。
また、首脳会談に関する報道について、専門家としてどのように読み解くべきかという点も非常に参考になりました。
一方で、後半の「日本はどのように生き残っていくべきか」というテーマについては、もう少し踏み込んだお話を伺えれば、より理解が深まったと思います。

米中首脳会談直後という非常にホットなタイミングで、習近平氏およびトランプ氏の思考や、両国の戦略的意図について分かりやすく解説いただき、大変興味深い講演でした。
特に、中国が狙う米中勢力分割や、台湾不介入につながる「米中版・桂＝タフト協定（密約）」の可能性に関するお話、ならびに習近平政権の台湾政策や台湾有事におけるエスカレーション・ラダーの解説は非常に印象に残りました。
特に、戦争未満の第4段階としての邦人拘束や、第4段階から第6段階にかけての海上封鎖など、具体的なシナリオを交えた説明により、台湾有事が決して対岸の火事ではなく、日本にも直接的かつ重大な影響をあたえる事象であることを実感し、自分事として捉えるきっかけとなりました。
また、日本企業に求められるインテリジェンス機能の強化や、緻密なシミュレーションに基づく「有事」「有事後」への備え、さらにはサプライチェーンの見直しなどについても、自身の業務にどのような影響があるのか、引き続き考えていきたいと感じました。

テレビの向こうで起こっている遠い世界の事で自分には関係ないと感じていたが、本講演後、無関係ではいられないと実感した。特に印象的であったのは、峯村講師が実際に中国当局に連行されるなど、情報収集の過程で非常に過酷な経験をされてきた点であり、その体験に基づくお話には説得力を感じた。

台湾問題が単なる地域的な問題ではなく、対応を誤れば米中衝突の引き金になり得る点が強く印象に残っている。また、私は台湾と日本のハーフの友人がおり、これまでに台湾へ4回ほど旅行した経験があるため、今回の講演を通じて、今後、気軽に台湾を訪れることが難しくなるのではないかという現実的な懸念を抱いた。

さらに、戦争といえば従来の武器による衝突をイメージしていたが、講演ではサイバー攻撃や情報戦、経済封鎖など、いわゆる「上陸しない戦争」や新型戦争についても言及があり、実際に戦闘が起きなくても社会機能に深刻な影響が及んでしまう点に恐ろしさを感じた。目に見えない形で進行する戦争は一般市民が状況を把握しにくく、より一層危機意識を持つ必要があると感じた。今後はニュースの表面的な情報だけでなく、その背景にある国際関係や各国の思惑についても意識して理解を深めていきたい。

大変興味深く聴講いたしました。峯村氏の経歴から、大国の思惑、現在の情勢まで、短い時間ではありましたが、大変引き込まれました。個人的に気になったのは、台湾に固執する中国の、というよりは習近平の思いでした。若い時に福建省で行っていた親台湾派への接触到起因しているのでしょうか、どうしてそこまで拘るのか、日本人である私には理解できかねる執念だと感じました。峯村氏の講演時間がもっとあったのであれば、その因縁に対する見解を聞いたのかも知れないと言うのが残念です。中国の台湾への固執は、ロシアのウクライナへの固執と重なり、その時の指導者の一存で脅かされる平和の儚さも感じさせられ、指導者の任期というはやはりどの国も、制限しておくことが正しい施政の在り方なのだろうと言うのが感想です。近年はナショナリズムな政党・指導者が国家を率いる体制へ切り替わることも多い情勢ですが、不穏なことではないかと感じます。ジャーナリストを含め、グローバリズムの視界を持つ草の根レベルの活動を広める必要があるのではないかと思います。

普段はニュース等の断片的な情報でしか触れる機会のない米中関係について、今回の研修では背景や文脈を含めて詳しく学ぶことができ、大変貴重な機会であったと感じております。

また、日常生活においては自身の興味や業務上必要な知識の取得に偏りがちであることを改めて認識し、視野を広げる重要性を実感いたしました。

特に、習近平政権が短期的な経済成長よりも台湾問題を重視する背景についての説明は非常に示唆に富んでおり、強い関心を持って拝聴いたしました。

現在、当社および私が所属する部門においても多国籍な人材が増えている中で、業務遂行にあたっては専門知識だけでなく、各国の価値観や思想といった相互理解を一層深めていく必要性を強く感じました。

台湾有事を巡る中国とアメリカの政治的対立について、非常に興味深く拝聴いたしました。本講演を通じて最も強く感じたのは、国家の運命が指導者個人の思惑によって大きく左右され得るという点です。習近平氏の台湾に対する強い執着や、トランプ氏のパーソナリティといった個人的要素が意思決定に反映され、結果として国際情勢が大きく動いていく現実には、ある種の理不尽さを覚えつつも、結局のところ社会は「人」によって構築されているのだという本質を改めて認識させられました。

また、そのような不確実性の高い環境下において、日本、ひいては自身の所属企業がいかに対応していくべきかを考えるにあたり、インテリジェンス機能の強化を通じたリスク把握と備えの重要性に立ち返る必要があると感じました。外部環境に翻弄されるのではなく、自らの足元を固め、主体的に対応力を高めていく姿勢こそが、今後ますます求められるのではないかと考えました。

この度は峯村先生より、米中両側の目線からお話を一度に伺える素晴らしい機会に恵まれ、世界情勢（大国間の政治的戦略）への興味が深まる時間となった。

今まで「有事」と言われて思い浮かべるのは自然災害が主だったが、この先は他国から誘発される戦争もあり得るのだと危機感を覚えた。戦争は、初動が緩やかで気づきにくく、対策も取りづらいかもかもしれないと感じた。しかし「こういう場合もある」と意識するだけで、情報を得る感度が変わるような気がしている。

インテリジェンスが大切だというお話も印象に残った。情報を集めて分析し、リスクを察知し、対策を強化していく。これは何事にも通じることで、生活や業務に取り入れていきたい。

また、人を知り、その人の目線に立って物事を見ることで、大きな動きの「根っこ」に気づきやすくなるのだなと感じた。（トランプ・習近平の人柄から行動を予測するというお話が印象的だった。）

お話の中で、峯村先生が「これは私が好きでやっていること」と何度もおっしゃっていたのが心に残っている。「好き」が動くための原動力になると、改めて思った。

昨今は自分の興味のある情報ばかりを追いかけるがちだが、直接講師の方からお話を伺うことで、頭に一つ新たなアンテナが立ったように感じた。表情を見て声を聞き、会場の空気が揺れる瞬間を感じられる対面だからこそ、得られたものだと思う。今後の研修がより一層楽しみになった。

峯村先生の講演を踏まえ、日本がおかれている状況を整理し、そのうえで日本企業（自社）に求められる対応は何かということを考える機会を得ました。

日本の立場は、安全保障面では米国に依存し、経済面では中国に依存するという、両国に依存する中間的な国家であり、いわば板挟みの状態にあります。米国と中国が接近した場合には、三角関係の中で日本のみが制約を受ける構造となる恐れがあるのではないかと感じました。

また、「台湾有事＝日本有事はビジネスリスクである」という安倍元首相の指摘のとおり、そのような事態が現実味を帯びてきていると感じられ、決して他人事ではないと考えました。

さらに、昨今の国際情勢においては、中東情勢の緊迫化などにより、日本が依存しているエネルギー供給への影響や原材料の調達困難、さらには物価高騰といったリスクが顕在化していることから、いつの時代においても日本企業に求められる対応として、①インテリジェンスの強化、②綿密なシミュレーションに基づく「有事」および「有事後」への備え、③事業の見直しの検討は、いずれも重要な課題であると再認識しました。

想像していたよりも非常にわかりやすく、興味深いお話でした。これまで、ニュースで国際情勢といわれても、どこか他人事のように感じていました。各国のリーダーの考えや動機、その背景まで深く考えたことはありませんでしたが、今回それを知る貴重な機会となりました。

また、表面的な情報や事実だけでなく、「なぜそうなっているのか」という背景まで、もう一步踏み込んで考えることの重要性を実感しました。これからはニュースを見る際にも、今後の日本の立ち位置やその背景に目を向けながら、自分なりに関心をもっていきたいと思えます。

峯村氏の講演を聞き、普段ニュースで目にする米中関係について、その背景や各国の考え方を知ることができました。

特に印象に残ったのは、峯村氏が中国やアメリカに赴任した際の実体験を交えながら説明されていた点です。先日の米中首脳会談についても、単純な対立構造ではなく、それぞれの国益や戦略が複雑に絡み合っていることが分かり、ニュースだけでは見えてこない視点を獲得することができました。

また、日本は米国の同盟国でありながら、中国とも経済的な結びつきが強く、米中関係の変化が日本企業や私たちの生活にも影響することを改めて感じました。

これまで国際情勢は自分とは少し距離のある話だと思っていましたが、今回の講演を通じて身近な問題として捉えることができました。今後はニュースを見る際にも、その出来事の背景や各国の思惑に目を向けながら情報を理解していきたいと思えます。

これまで恥ずかしながら台湾有事を日本にはさほど直接影響しないものと捉えていたが、講演を通じて、海峡の封鎖などが段階的に進行すれば、日本も当事者として影響を受け得ることの現実味を持った。精神的に追い詰めることが一番の追い詰め、という思想も心に残り、途中で紹介された映画「Zero Day」も興味深く是非視聴しようと思う。

学びとして特に大きかったのは、災害・有事対応をインテリジェンス強化とシミュレーションで鍛えるべき、という整理である。想定外をゼロにすることはできないが、少なくとも「想定していなかったために初動が崩れる」領域は、事前の情報収集と反復訓練で減らせる。「一回やってみないとわからない」という趣旨の指摘で、まさに現在私の業務として検討しているICTのBCP訓練に直結する示唆だった。FactとEvidenceを切り分け、Evidenceとして不足している部分を演習であぶり出すというようなことにつなげていきたい。

私にとっては非常に難しいお話でした。【台湾有事】は【日本有事】と話されていたことが印象的でした。有事がおこってからでは遅く、事前の備えが大事で、企業において同じことが言えること。理解されなくてもめげず訴え続けることの大切さを学ばせていただきました。

実体験に基づいて今後の予測される展開等を講義いただき大変興味深く拝聴しました。

台湾有事が発生した際に海上封鎖されると日本の航路にも多大な影響が出ること等、対岸の火事ではなく通関業務に携わるものとしてきちりと考えていかないといけないと改めて感じました。

裏話も多くとても楽しく聞かせていただいたため、時間が過ぎるのが早かったです。

講義内容を素直に受け止めすぎて質問が思い浮かばなかったため研修を受ける際の今後の課題としていこうと思います。

恥ずかしながら国際情勢については無知な状態でしたので、受講前は内容を理解できるか不安でしたが、峯村様のお話しが大変分かりやすい上に面白く、知識がない私でも講義を楽しみながら内容をしっかりと理解できたことに感激いたしました。

私は、中国による台湾周辺での軍事演習が行われた2025年12月末に、旅行で台湾を訪れていました。軍事演習が行われていることは滞在中にニュースで認識していたものの、自分には関係ないし、日本にも問題なく帰れるだろうと楽観的に捉えてしまっていました。しかし、講義で軍事演習の目的や、軍事演習による海上封鎖が日本の輸出入にも大きな影響を与えることを知り、無知であることの恐ろしさを感じました。普段国内のニュースにばかり目を向けてしまいましたが、他国の動きは他人事ではなく私達の生活が脅かされる危険性もあるということを感じました。

また、昨今の中国の動きを受けて企業として行うべきことは、「インテリジェンス」および「ファクトとエビデンスを持って社内へ提言する」ことだとお話しされていましたが、どちらも私が所属する部署の役割になるため、今回の講義は自分自身の業務に直結する大変貴重な学びとなりました。これからは「無知」であることから脱却し、国際情勢の変化をいち早く捉え、ファクトに基づいた確かな提言を行えるよう、自身のスキルと意識を高めてまいります。

・普段決して聴講できる内容ではないと思いますのでとても興味深かったです。

・26/5/14の米中首脳会談が20年後の歴史教科書に記載される可能性あるほどの転換点と言われており、その観点が面白いと思うと同時に歴史的意義のある会談に生きて立ち会っているためもっと海外政治に興味関心をもっていきたいと思いました。

講演の中で特に印象に残ったのは中国が構想しているという「新型統一戦争」の話でした。直接的な武力攻撃を行わず、人の心を掌握し台湾国民の戦意を喪失させるという戦法はこれまでの歴史から見るとそんなことが可能なのか？と疑問に感じるものでした。しかし、今現在の自分の生活に落とし込んで考えてみると、インク不足に備えた食品メーカーのパッケージ変更のニュースを聞いただけで確かに心がざわつき、不安を感じました。数か月後に実際にスーパーで色のない白黒の商品を目の当たりにした時には、きっと今よりも暗澹たる思いになると思います。一国が総力を挙げてこういった小さな不安を国民にじわじわと与え続けることで国民の心は挫かれ、「新型統一戦争」は十分実現し得るものであると思いました。「台湾有事」＝「日本有事」であると話にあったように、他人事ではなく自分事として今後の米中台の動向に注視していきたいです。

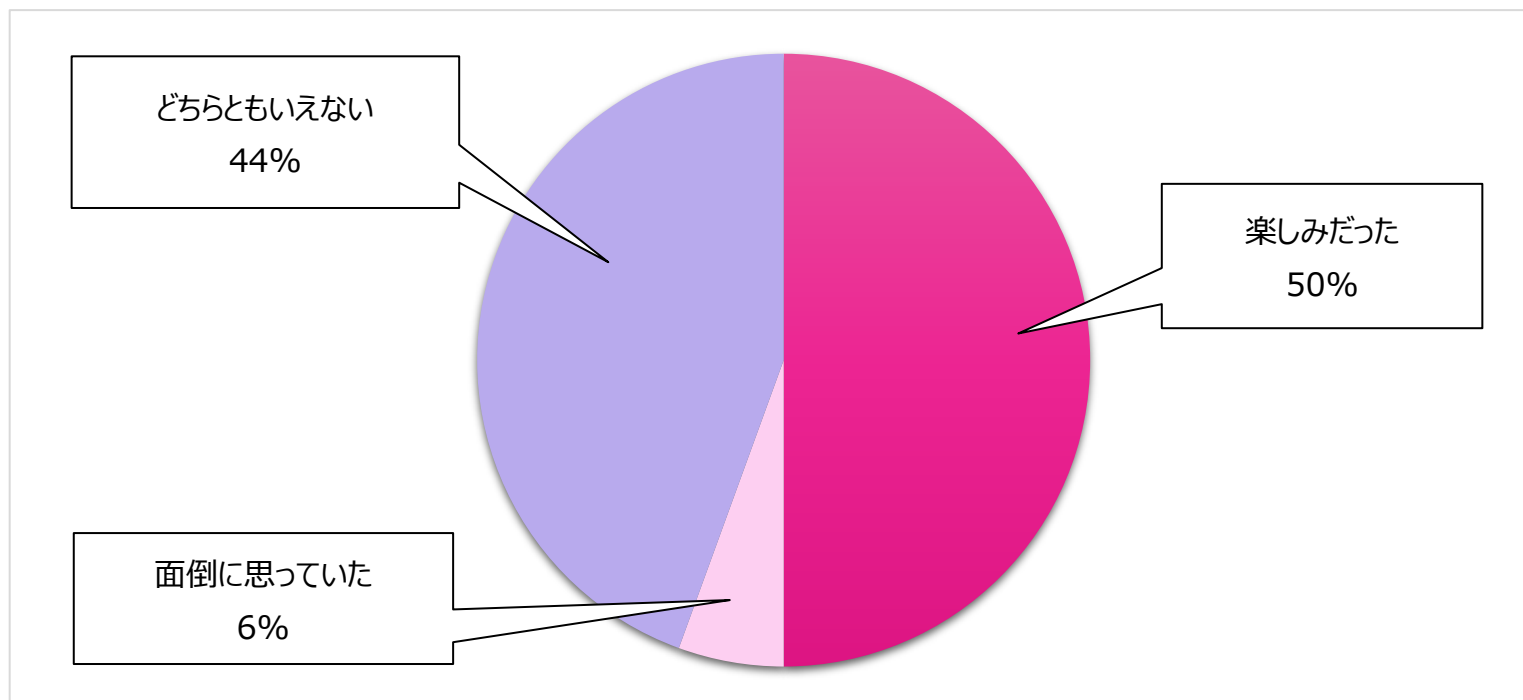
これまで米中関係や台湾有事の問題はニュースとして関心を持つ程度でしたが、講演を通じて日本や企業に直結する重要な問題であることを実感しました。特に印象に残ったのは、有事（戦争）は必ずしも従来のような武力衝突だけではなく、人の心に働きかけ、内部から崩壊させる手法もあるということです。

宗教のように情報や価値観を通じて相手の考え方や行動に影響を与えることで、人をコントロールし直接戦わずして優位に立つことがあることに恐怖を感じました。また、それにより自分たちが気づかないうちに社会が大きく変わってしまう可能性があるという点に危機感を覚えました。

今回の講演を通して、これまでの自身の認識の甘さに気づくとともに、目に見えないリスクに対して関心を持つことの重要性を認識しました。また、目に見える情報についても安易に信じ込むのではなく、その背景や意図を意識しながら、様々な角度から分析したうえで活用することが重要であると感じました。

(2) 研修受講前の気持ちを教えてください。

【楽しみだった 面倒に思っていた どちらともいえない】



その理由を100文字以内でご記入ください。

長年このような研修を受ける機会がなく、社外の方との交流をすることがなかったため、異業種の方との新しい出会いに素直に楽しみに感じた。また事前資料を拝見し研修内容にこれから学びたい内容が詰まっていたため。

事前に共有された年間カリキュラムを拝見し、今後のキャリアに大変有益であると感じ、本研修を楽しみにしておりました。

米中首脳会談が終わったタイミングで中国と米国の両方のお話を聞くことができると思い、とても楽しみにしておりました。またテレビ等では聞けない貴重なお話も聞くことができるのではと期待しておりました。

ニュース番組の解説者として以前より存じ上げている峯村講師の話を実際に目の前で拝聴できる機会は貴重であると感じ、拝聴できることを楽しみにしていた。

社外の方と接点が少ないため、他社の参加者と会話をし、違う視点の考え方に振れることは大変楽しみですが、他の参加者と自分の資質の差について不安も感じております。

カリキュラムを拝見し、様々な角度から知識の取得ができると考えたためです。

今回参加に至った経緯が役員の推薦という受動的な理由であったことに加え、4月に異動したばかりで自身の業務量も把握できていない中での受講となったため負担に感じていた。

研修内容が幅広かったため、自分の視野を広げるためには良いと思ったから。
1年を通じて受講した後の自分はどんな感想を持つだろうかと楽しみにしている。

参加者の方々のレベルや自身が講義についていける等、不安を抱いておりましたが、自身と近い境遇のもとでキャリアアップを目指して挑戦されている方々が多くいらっしゃることを知り、安堵しました。

ロールモデルや女性管理職といった言葉とはこれまで無縁で過ごしてきたため、スクールの趣旨や目的に自分が適しているのか不安が大きかったのが正直な気持ちでした。

私は研修に苦手意識があり、人見知りなため新しい環境や初対面の方との交流に緊張してしまいます。また、周囲の様子が気になり、慣れるまでに時間がかかることも理由です。

ただ、普段の業務では得られない学びもあると思いますので、自分なりに前向きに参加していきたいと考えています。

普段後回しになりがちなキャリアを見直す機会で、異業種交流から刺激と学びを得られると感じたため。

楽しみにしていた気持ち30%。自分自身がレベルの高い受講生ならびに講座についていけるかの不安な気持ち70%だった為

女性のキャリア形成としてもそうですが、職場でリーダーを目指して働いていく場合、本を読んでもなかなかイメージしづらく、結果身につけづらいつ感じます。それぞれ一線で活躍されている講師の方から実用的な研修を受けられることは大きな成長につながると思うので大変楽しみにしておりました。

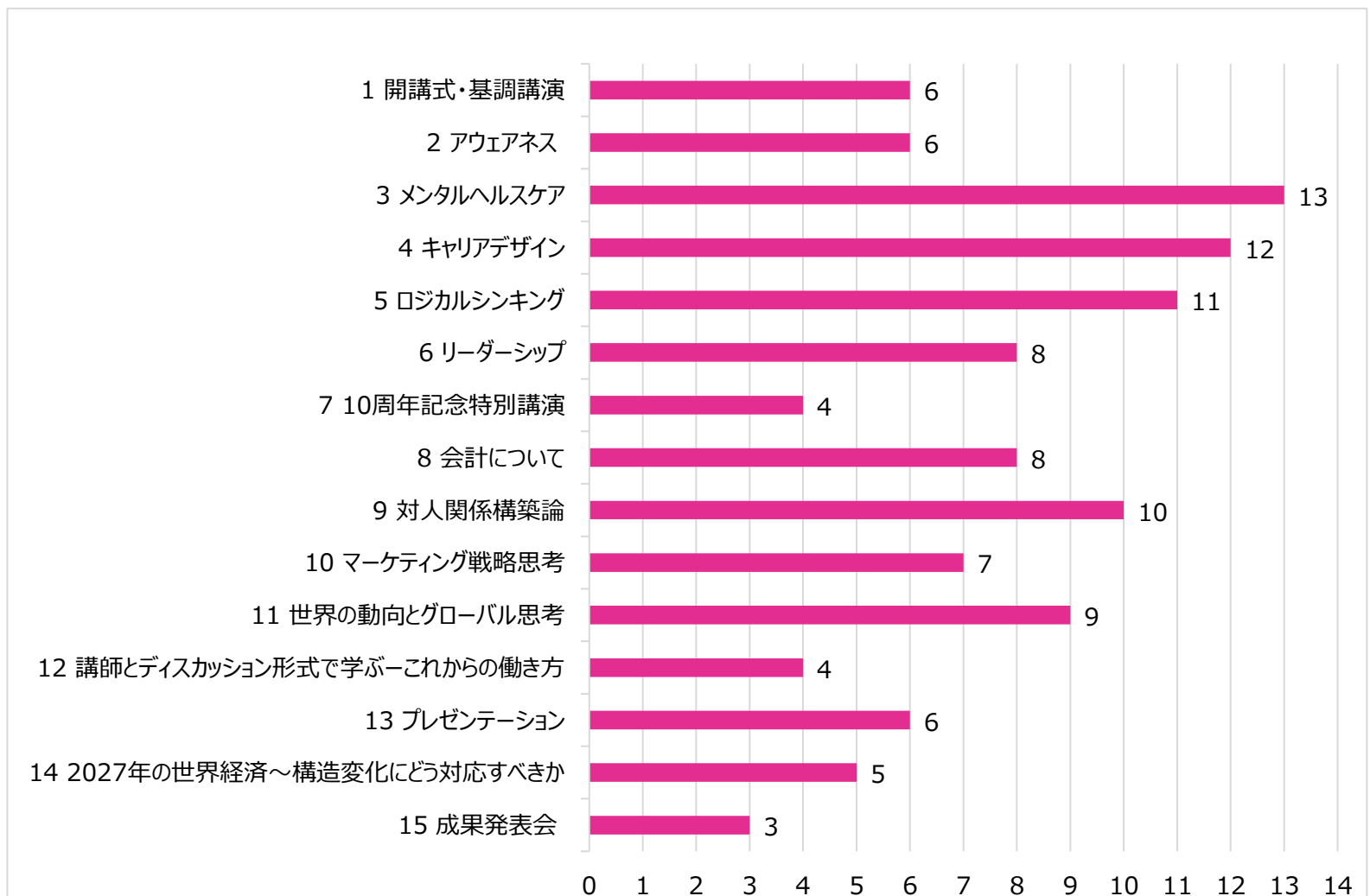
今後のキャリアに迷いがある中で、「管理職を育成する」ことを目的とした本研修に参加することに対しては、正直不安な気持ちが大きかったです。一方で、過去PWBSに参加した同僚から「講義が面白い」ということを聞き、新しい知識を得られることへの楽しみはありました。

1年間、継続的な研修のため仕事との両立ができるかなと不安でした。

楽しみ半分、不安半分というのが正直な気持ちでした。事前にいただいたパンフレットの年間カリキュラムを見て、普段あまり触れたり、考えたりしたことがない分野やテーマが多くあったので、研修内容についていけるか不安でした。ただ、異業種・職種の女性とともに学べるという点はとても楽しみでした。

年間テーマを拝見し興味深く感じた反面、意識やレベルの高い方が多く参加されるのではないかと不安でいっぱいでした。実際に自己紹介や休憩時間等に他の受講者の方とお話したことで不安が和らぎました。少しでも自身のレベルアップや会社に持ち帰ることができるよう前向きに取り組みたいです。

(3) 興味を持ったカリキュラムはどれですか。(複数回答可)



(4) 一年間の意気込みをご記入ください

貴重な機会を会社からいただき、参加させていただきますので、自分を120%を出すをモットーに全身で受講させていただきたいと考えております。毎回魅力あるカリキュラムを楽しみ、自らの志を高め、研修終了後には「常に自分の考えを持ち、相手に明確に伝えられる人間になる。」ことを目指します。1年間よろしく申し上げます。

これまでの業務で培ってきた経験をもとに、視野を広げながら、自分の強みをより言語化（人に伝えられる）・体系化（仕事で使える武器になる）していきたいと考えています。多様なバックグラウンドを持つ皆さまとの学びを通じて、新たな価値の捉え方や発想を取り入れ、実務にも還元できる一年にしたいです。

この度はP W B Sに参加させていただく機会をいただき、誠にありがとうございます。異業種の皆様との交流や多様な講義を通じて、新たな視点を積極的に吸収し、自身の成長につなげていきたいと考えております。子育ても中盤を迎え、社会人としても中堅の立場となる中で、今後のキャリアや役割を主体的に切り拓いていく必要性を強く感じております。本研修での学びを通じ、「主体的に生きる」とは何かを自ら問い続け、実務においても具体的な行動として体現していきたいと思っております。一年間どうぞよろしく申し上げます。

本研修でビジネススキルの向上はもちろん、多様な視点や考え方を積極的に吸収し、自身の業務に還元できるよう努めたい。また、業界が異なる社外の研修生との交流を通じて視野を広げるとともに、自身の強みを改めて見つめ直し、今後組織への貢献につなげていきたいと考えている。全15回という限られた機会を最大限に活かし、成長できるよう取り組んでいきたい。

付いていけるかという不安はありますが、積極的に講義を吸収し、参加者と大いに話し、多くのことを収穫していきたいと思っています。

普段は女性の方々とご一緒する機会があまり多くなく、また他社の皆様とお話する機会も限られているため、社会人になってから新たなご縁を広げる機会が多くはありません。そのため、本研修を通じて、皆様と交流しながらお互いに刺激を受け、高め合える関係を築ければと考えております。また、私自身も他の参加者の皆様に学びながら、日々の業務に真摯に取り組んでまいりたいと思っています。1年間どうぞよろしく申し上げます。

各分野のエキスパートである講師陣の講義を通じて、自身の知識や思考の深化を図り、継続的なスキル向上に努めていきたい。また、多様な業種・バックグラウンドを持つ参加者が集う貴重な機会であるからこそ、交流を通じて新たな視点や発想に触れ、自身の視野を拡張していくことが重要であると考え。こうした学びと気づきを最大化するためにも、毎回の研修に主体的に向き合い、その意義を十分に活かしていきたい。

日頃、凝り固まった頭が少しでも柔らかくなるように、いろんな方のお話を伺い、対話させていただき、自分の枠を広げていきたいと思っています。

そのため、以下の2点を心がけます。

- ・面白い！楽しい！をたくさん発見できるように前向きに
- ・知らない、わからないことを存分に伝える

自分の足りないところを少しでも埋められる1年にしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

営業職に携わりながらも、人前で意見を述べることや人脈づくりに苦手意識がありました。

今回の研修では、そうした課題を克服することを一つの目標としたいと考えています。

今後は、前向きかつ積極的に発言することを心がけ、知識の習得だけでなく、同期の皆様との交流も深めてまいります。

本研修を通じて、修了後も続いていく同期生同士の「絆」を築いていきたいと思っています。

正直なところ、1年間この研修についていけるのかという不安は大きいです。

しかし、松田先生が「さまざまな経験をしてほしい」「仕事をするうえでもっと早く知りたかった内容が詰まっている」とおっしゃっていたことを受け、このような機会をいただけたことを前向きに捉え、取り組んでいきたいと思っています。

これまで異業種や他部署との関わりが少なく、異動の機会もありませんでした。私と同じように、経験を広げる機会が限られていることで視野が狭まり、手詰まり感や働きにくさを感じている人も多いのではないかと考えています。そうした人たちのためにも、ひとつでも多くの学びを持ち帰りたいです。

この研修を通じて物事をより高い視座で捉えられるように自分自身を成長させていきたいです。

1年間の研修を通じて、知識を得るだけでなく、多様な考え方や価値観に触れることで自身の視野を広げたいと考えています。普段の業務では人事という立場で物事を見るが多いため、異業種の方々との意見交換を通じて新たな気づきや視点を得る機会にしたいです。

また、学んだことをその場限りにせず、日々の業務の中で実践しながら、自分なりの気づきや学びにつなげていきたいと思っています。1年間、ひとつひとつの学びを大切にしながら参加していきます。

本研修では異業種の方々と継続的に関われる貴重な機会を最大限活用し、普段の業務環境だけでは得られない視点・経験・価値観を吸収する1年にしたいです。講師の方の貴重な講義を通じて、普段時間を取って考えることが難しい自身のキャリアプランについて考えながら、自分の中で大切にしていきたい軸を見つけていきたいです。学びを理解で終わらせず、対話や発表の場で他者に伝わる形に構造化するプレゼンテーション力も鍛えたいと思っています。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

1回1回の研修を大切に、受講前の自分よりも確実に成長したと言えるよう、

また、研修で学んだことを現場に活かしていけるように頑張っていきます。

研修受講前の気持ち欄にも記載した通り、このような機会はなかなか得難いものだと考えております。
弊社の上役からも推薦という形で研修を受けられることになったため、貪欲に学んでいければと考えております。
1年間何卒よろしくお願いいたします。

現状、スキル面・精神面ともに、管理職になるには至らない点が多くあると自覚しております。1年間研修や参加者の方からたくさんのことを学び、研修を修了する頃にはこの1年間で大きく成長したと自信を持って言えるよう、真摯に取り組んでいきたいと思っております。

異業種の女性と関わる機会をいただけたことに感謝しています。
たくさんの刺激と学びを享受したいと思います。
1年間よろしくお願いいたします。

内勤のため社外の方と直接顔を合わせて話す機会が少ないので、社外の異業種・職種の方々と意見を交わしあうことで刺激をもらいながら楽しく一緒に学んでいけたら、と思います。個人的に大人数の前で何かを話すということに強い苦手意識を持っているので、一年後の成果発表会では今よりも自信をつけて発表できるよう、各研修に臨みたいです。

本研修で多くのことを学び、自身の業務に役立てていきたいと思っております。
皆さんとの意見交換や共有を大切にしながら、楽しく有意義な時間にしていければ嬉しいです。
1年間どうぞよろしくお願いいたします。